

第36回 ろうきん運営委員トップセミナー



2月4日(月) ホテルアソシア静岡(静岡市)にて、〈ろうきん〉各店運営委員会の運営委員長、副運営委員長などにお集まりいただき、「第36回ろうきん運営委員トップセミナー」を開催しました。



「労働金庫の真価」～存在理由を理解し、ろうきん運動の深化を図ろう!～

働く人の夢と共感を創造する協同組織の福祉金融機関



労働金庫の存在理由を理解するために、原点に立ち返り、〈ろうきん〉の歴史を振り返り、理念をおさらいしたいと思います。

理念の一節に「ろうきんは働く人の夢と共感を創造する協同組織の福祉金融機関です」とあります。これからの〈ろうきん〉のあるべき姿を考える上で、重要なキーワードが含まれています。

まず「働く人」。働く人とその家族の笑顔のために、使命を果たすこと。その積み重ねが皆さんのやりがいや喜びに繋がります。価格競争に走ってしまったら、他の金融機関と変わらなくなってしまいます。



〈ろうきん〉と会員組合員の間に、単なるお金の貸し借り以上の繋がりができるような業務運営・運動が必要です。次に「共感」。これからの時代を生き残るためには、価値観やビジョンに共感してもらえぬかが重要です。相手の喜びや悲しみなどを感じ取りながら、お客さまが幸せを感じるサービスを提案することは、AIには決して真似できません。最後に「福祉」。福祉の語源は「神さまが心地いいと感じること」。人生という旅が心地いいと思えるように、働いている人が「働いて良かった」と思えるように〈ろうきん〉が存在していると思います。

お客さまの立場で考え、「思い」や「心」を込めることで「作業」が「仕事」になります。その「仕事」が働く人の笑顔に繋がります。必要とされるはずで



新中計「真価」の初年度として、運営委員会が中心となり、会員の皆さんと役員が一体となって



「SDGs(Sustainable Development Goals) 持続可能な開発目標」の取組については、金融庁とその実効性について、

12月末時点の2018年度事業実績は、預金・融資ともに目標達成に向け順調に推移しています。〈ろうきん〉運動の深化については、運営委員会出席率が80%を超え、会員オルグ活動の参加運営委員も延べ328人となっています。〈ろうきん〉利用の深化については、すでに到達目標を達成している項目が多数あります。各運営委員会での様々な創意工夫、協同した運動の定着による成果であり、数値には表れない成果も含め、日頃の皆さまの努力に改めて敬意を表したいと思います。



古川 正明 理事長 「SDGs」の取り組みを通して、「誰一人取り残さない」社会を実現!

インフルエンザが猛威を振るっていますが、インフルエンザより怖いのは、企業の不祥事や不正です。昨年は金融業界でも組織的な不正が発覚しました。不正のあった企業が働く人が悪いのかという針に真面目に取組み、業績目標と顧客の要望を満たすために逸脱した対応をしてしまったのだと思います。顧客本位の業務運営は、〈ろうきん〉の理念そのものですが、県内他行庫も地域の人々の暮らしのため「を方針として掲げており、



〈ろうきん〉運動を前進させることができていると感じています。また、前中計「TRY」で計画以上に積み上げることができた預金融資のボリューム拡大もあり、少しずつではありますが、経営基盤は良い方向に向いていると考えています。



2019年度は第3期中期計画「真価」の中間年度として、初年度の成果を受け継ぎながら、着実に活動を進展・定着させることで、中期計画3カ年の目標を確かなものとする1年として位置づけられます。働く人とその家族の笑顔のために、会員とスクラムを組んで「真価」を発揮するという方向性を堅持し、運動と事業を持続的に発展させていくための基盤構築に継続して取り組みます。



中屋 敏明 実行委員長(島田支店運営委員長) へろうきんらしさを発揮するために、運営委員が組合員との共感を創造する!

私たちは同じような理念を持った他金融機関と競争していかねばなりません。〈ろうきん〉と他金融機関の決定的な違いは、私たち運営委員の存在です。〈ろうきん〉らしさを発揮するためには、私たち運営委員が組合員との共感を創造することが責務となります。本日は運営委員同士で様々な取組みを共有・共感いただきたいと思います。また、〈ろうきん〉運動は組合員の幸せに繋がるという強い気持ちで取組んでいただけるよう、実行委員会の熱意が詰まったセミナーになっています。ここにいらっしゃる皆さんが幸せを感じていただけるよう、実行委員が精一杯努めさせていただきます。

2019年度は第3期中期計画「真価」の中間年度として、初年度の成果を受け継ぎながら、着実に活動を進展・定着させることで、中期計画3カ年の目標を確かなものとする1年として位置づけられます。働く人とその家族の笑顔のために、会員とスクラムを組んで「真価」を発揮するという方向性を堅持し、運動と事業を持続的に発展させていくための基盤構築に継続して取り組みます。



について意見交換するとともに、へろうきんの役割発揮が期待されています。具体的には、多重債務防止に向けた啓発活動、低利なローンへの借換えによる勤労者の可処分所得の向上、雇用や生活に不安を抱える非正規勤労者への生活相談や生活資金融資等による支援、へろうきんらしい預かり資産商品のラインアップの充実や、マネーアドバイザー機能の発揮による勤労者の老後の生活不安に対応した総合的な資産形成支援などを実践することにより、社会的課題の解決に取り組んでいきます。

池田 正典 専務理事 第3期中期計画「真価」の中間年度として 目標達成のための施策を着実に実行!

2019年度は第3期中期計画「真価」の中間年度として、初年度の成果を受け継ぎながら、着実に活動を進展・定着させることで、中期計画3カ年の目標を確かなものとする1年として位置づけられます。働く人とその家族の笑顔のために、会員とスクラムを組んで「真価」を発揮するという方向性を堅持し、運動と事業を持続的に発展させていくための基盤構築に継続して取り組みます。

「SDGs」の取組みを通して、「誰一人取り残さない」社会の実現に寄与していきたいと思っています。〈ろうきん〉役員・運営委員の皆さまが、これからも「誇り」と「自信」を持ち、ともに前進していけるよう取組んでいきたいと思っています。

